

平成30年度 第2回さいたま市地域公共交通協議会 議事録

□日時：平成30年11月13日（火）10時00分

□場所：大宮区役所 南館3階 301会議室

□配布資料

- ・ 次第
- ・ 出席者名簿・座席表
- ・ 資料1 地域公共交通網形成計画の計画期間等について
- ・ 資料2-1 地域公共交通網形成計画の基本方針等について
- ・ 資料2-2 【参考】基本方針に沿って設定する軸等について
- ・ 資料3 第1回バス専門部会開催結果について
- ・ 資料4 今後の進め方について
- ・ 参考資料

1. 開会

【事務局】

- ・ 定刻となりました。平成30年度第2回さいたま市地域公共交通協議会を開始します。
- ・ 進行につきましては、さいたま市地域公共交通協議会条例の規定により、久保田会長が議長となることとなっておりますので、これからの会議の進行をお願いしたいと存じます。久保田会長、よろしくお願いいたします。

2. 挨拶

【久保田会長】

- ・ 今日もどうぞよろしくお願いいたします。規定により私が議事を進行します。
- ・ まず、委員の出席状況について事務局より報告をお願いします。

【事務局】

- ・ 本日は、30名の委員中25名の出席です。したがって、さいたま市地域公共交通協議会条例の規定による委員の過半数に達しておりますので、本日の会議は成立することをご報告します。

【久保田会長】

- ・ 次に、会議録の署名委員を決めたいと思いますが、さいたま市地域公共交通協議会運営規程より、私から指名します。
- ・ 今回の署名については、村田委員、坂本委員、以上の御二人をお願いしたいと思います

が、よろしいか。

(署名委員の指名について了承)

【久保田会長】

- ・ 続いて、本日の会議の公開について諮りたいと思います。本日の議事に関して、非公開事項に該当する案件があるか事務局に伺います。

【事務局】

- ・ 本日の会議で、非公開事項に該当する議事はありません。以上です。

【久保田会長】

- ・ 本日は非公開事項に該当する議事がないと確認されたため、本日の会議を公開で行いたいと思いますが、よろしいか。

(出席者全員一致で、協議会を公開で行うことを確認し、了承)

【久保田会長】

- ・ それでは、本日の会議は公開とします。事務局は、傍聴者について報告をお願いします。

【事務局】

- ・ 本日は4名の傍聴者がいらっしゃいますので、傍聴者が入場するまで、しばらくお待ちください。また、東京交通新聞社より、取材の申し込みがございました。冒頭の撮影について許可してよろしいでしょうか。

(取材申し込み・冒頭の撮影について了承され、傍聴希望者等の入場)

3. 議事

3-1. 地域公共交通網形成計画の基本方針等について

【事務局】

資料1「地域公共交通網形成計画の基本方針等について」の説明

資料2-1「地域公共交通網形成計画の基本方針等について」の説明

資料2-2「【参考】基本方針に沿って設定する軸等について」の説明

【久保田会長】

- ・ まずは地域公共交通網形成計画の計画期間について、2021年から10年間、ただし中間年度に検証を行い、必要に応じては計画を見直すことも検討するという事務局からの提案であった。事務局からの提案の通りに設定してよろしいか。

(異議なし)

【坂本委員】

- ・ 資料2-1、基本方針3、4については具体的な目標を立てる予定はないということか。
- ・ 例えばコミュニティバスや乗合タクシーについては、満足度調査や市民アンケート調査を活用して、指標を設定することが考えられる。また、利用者数を設定することも考

えられるがいかがか。

【事務局】

- ・ 委員の意見を参考に再度検討します。

【北村委員】

- ・ 高齢者や障害者にとって、外出は QOL の向上につながる。基本方針 3 については QOL やライフスタイルの向上など、より大きな視点も踏まえて記載したほうがよいのではないか。
- ・ 安全性の視点も抜けている。交通事故は大分減っているが、基本的には事故が発生しないことが理想である。安全の視点も踏まえて、公共交通はどうあるべきかを捉えることが大事である。
- ・ 環境という視点も入れてほしい。埼玉県は自動車保有率が高く、環境負荷が高い。乗用車の保有・使用率を現状と同程度で維持するのか、低減して公共交通を利用してもらうのか検討してほしい。
- ・ 災害対策の視点も入れるべきである。水素・電気車両は災害時に緊急の電力として使用することが出来るため、水素バスを増やすことにより、万が一のときには電力を一定程度提供することができると思われる。
- ・ 自転車、自動車と公共交通との共存をどう考えていくかという視点も入れてほしい。今年、埼玉県では自転車の専用道路を作ったにも拘らず、自転車の事故が増えている。公共交通や自動車との関係が適切ではないからではないか。
- ・ 市民にとっては、公共交通に関する情報は不足している。例えば、バス待ちの時、遅延時間の情報提供は行われず、その後の鉄道の接続状況も不明である。公共交通、自動車に関する情報を一元化して市民に提供するという構想も視点に入れてほしい。

【事務局】

- ・ 委員の意見を参考に、課題・基本方針等について再度整理します。

【山田委員】

- ・ 資料 2-2、鉄道の車内の混雑状況に関する満足度は、満足とやや満足を足し合わせて 9.4%とある。電車を 1 本増発しても座れないという状況は変わらないので、急激に満足の度合いが高まるということは難しいのではないか。
- ・ 生産年齢人口の減少や働き方改革による労働時間帯の変化等により、朝のピーク時に電車を利用しない人が増えると、満足の度合いが増えるのではないか。まずは現状の人口動態や働き方を見ながら、目標値は現状を目指すのがよいのではないか。

【事務局】

- ・ 公共交通の現状を維持することも大変厳しい目標と考えられるので、委員の意見を参考に再度検討します。

【坂本委員】

- ・ 資料 2-1、施策（例）に AI タクシー等の実証実験とあるが、AI タクシーは既に民間

の需要予測の手段として開発もされている。市の施策ではなく、タクシー会社主体の事業であり、計画に位置づけるのは不適切ではないか。

- ・ 鉄道に関する改善の優先度が高いサービス項目だが、「自宅から鉄道駅までの徒歩時間」は意味があるのか。そもそも住居の場所によって数値は大きく異なるが、議論する対象となるのか。

【事務局】

- ・ タクシーも公共交通のひとつであり、市としても協力していきたいと考えていますが、資料 2-1 の表現については修正します。

【大沢委員】

- ・ 分析に使用した DID 地区の年度を資料に記載したほうがよい。
- ・ 最新の DID 地区で評価することは否定しないが、計画の目標年次は 10 年後であり、今後 DID 地区も変化すると考えられるが、これをどう捉えるか。浦和美園周辺や西大宮駅の北側は DID 地区ではないが、今後 DID 地区に編入される可能性がある。
- ・ 鉄道の混雑状況緩和のための施策について、「たまる・ためる」場所の確保という考え方もあって良いのではないか。例えば、待合室でノートパソコンを使って仕事してもらうことにより、ピークを緩和することなどが考えられる。

【事務局】

- ・ DID 地区のデータの出典は資料に記載します。
- ・ DID 地区だけではなく、人口の推移なども含めて詳細に分析しながら、動向を見極めた中で指標を整理していきます。

【大沢委員】

- ・ さいたま市の場合、DID 地区と市街化区域はほぼ一致しているのか。

【事務局】

- ・ 概ね一致していますが、DID 地区の方が市街化区域よりも若干広く、市街化区域内に市の総人口の 9 割の方が居住しています。

【久保田会長】

- ・ 都市政策を議論する際に、DID 地区と市街化区域のどちらを見ながら議論するのが妥当なのかという課題がある。

【大沢委員】

- ・ 立地適正化計画を作って集約するということになると、市街化区域内の内側に居住誘導区域を設定することになるが、どちらを見ながら議論すべきであるか、一概に判断するのは難しい。
- ・ DID 地区と市街化区域の関係を整理したほうがよい。

【事務局】

- ・ 資料は、委員の意見を参考に再度整理します。

【北村委員】

- ・ 資料 2-2、目指す公共交通ネットワークの検討で、担う交通手段として鉄軌道が記載されているが、意図は何か。さいたま市にふさわしい交通手段とは何かということを勉強して、先々を見据えた移動やインフラのあり方、道路の現況を考え、もっと身近な交通手段も合わせて広く検討すべきではないか。
- ・ 道路拡幅は大変難しいと思うが、道路空間の新たな利用を国土交通省でも検討している。また、拡幅だけでなく、道路の上空を活用するという考え方もある。道路空間の新たな使い方も視野に入れて、検討してほしい。

【事務局】

- ・ 平成 28 年度に「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」という交通政策審議会の答申が出ており、その中で、さいたま市としては「埼玉高速鉄道の延伸」と「東西交通大宮ルートの新設」が位置づけられているため、今回、鉄軌道として入れていません。
- ・ さいたま市にとってふさわしい公共交通は何かという議論は、この協議会の中でも実施していきたいと考えています。

【鈴木委員】

- ・ 施策と目標の関係性を整理すべきではないか。運行頻度の向上といった目標を達成するためには、道路上の公共交通が円滑に運行できることが最大の課題であり、そのために走行環境の整備検討、交通結節機能の強化検討などを実施するという流れが整理されているほうがよい。
- ・ 異常時に混乱無く人が移動できるようにするための施策や、それに応じた目標が必要ではないか。
- ・ 海外事例を踏まえて考えると、公共交通のネットワークの中にシェアサイクルを位置づけて検討したほうが良いと思われる。
- ・ 民間事業者独自の事業により、せっかく築き上げた方向性を崩される事態が発生する可能性があるが、そのような事業に対してどのように評価をしていくのか。

【事務局】

- ・ 施策と目標の関係性、異常時に係る施策などについては再度整理します。
- ・ シェアサイクルの位置付けについては検討します。

【北村委員】

- ・ 成果目標について市民満足度が最終的には全体を統括している。どのような市民満足度をどのように上げていくのかを検討して欲しい。
- ・ 例えば事故件数 0 件、災害時における避難拠点の電源確保 1 週間分など、具体的な目標を記載して欲しい。

【事務局】

- ・ 市民満足度、具体的な目標については、再度検討します。

【松本欣也委員】

- ・ 成果指標の達成に向けては民間事業者の具体的な動きに頼らざるを得ないところもあるが、成果指標の責任者について教えてほしい。
- ・ 協議会の運営について、今回は成果指標、次回は進捗管理指標・目標値とそれぞれ確定させるのではなく、場合によっては目標値を検討する段階で成果指標も見直すなど、柔軟に検討を進めてはどうか。
- ・ 基本方針 5 の成果指標のみ総論的であるが、目指す将来像に掲げられている個別のキーワードを手掛かりに、具体的な成果指標を考えてみてはどうか。
- ・ シェアサイクルも公共交通の中に位置づけるのがよいのではないか。また、基本方針 4 については、シェアサイクルの利用割合や、まちなかの観光・集客施設が集積している都心周辺バスの乗車率などが成果指標になるのではないか。
- ・ 進行管理をイメージして成果指標を設定するという視点も持ってほしい。例えば目標が達成できなかったときに誰が何をどうするのかについても、念頭に置きながら成果指標を作って欲しい。

【事務局】

- ・ 進行管理に当たっては、責任主体の追求まで実施する予定はないが、ある程度責任を持って取り組んでもらえるような方向性を示していきたい。
- ・ 協議会の運営については、柔軟な検討が進められるようにします。
- ・ 成果指標については、進行管理も含め、委員の意見を参考に再度検討します。

【坂本委員】

- ・ 基本方針 1 は中長期での成果指標管理が必要となる一方で、目標値は短期で管理していく必要がある。基本方針と目標値は別々に進捗管理を行うべきである。

【事務局】

- ・ 進行管理の方法については検討します。計画策定後も協議会を年 1～2 回開催したいと考えているので、会議でも報告したいと考えています。

【佐藤委員】

- ・ 5 年後以降は 75 歳以上の高齢者が増えて 4 人に 1 人となると予測されている。高齢者という括りではなく、公共交通を使う市民は高齢者が半分いるということを踏まえて本計画を検討して欲しい。

【久保田会長】

- ・ 大事な視点なので事務局は検討して欲しい。

3-2. コミュニティバス等について

【鈴木委員】

バス専門部会の説明

【事務局】

資料 3-2 の説明

資料 3-3 の説明

【松本敏雄委員】

- ・ 大宮区で 3 月から上尾市にある丸建自動車が路線バスを運行しているが、運行については全くさいたま市から知らされていなかった。さいたま市が運行について把握していたかは不明であるが、運輸支局などと連携して、市民にも知らせて欲しい。

【久保田会長】

- ・ 事務局から提案された変更案を了承するという事によろしいか。

(異議なし)

(出席者全員一致で、「西区指扇地区乗合タクシーの運行経路変更について」を了承)

3-3. 今後の進め方について

【事務局】

資料 4 「今後の進め方について」の説明

【鈴木委員】

- ・ 平成が終了することが確定している。計画における年号の表記は、西暦にした方が良い。

【事務局】

- ・ 今後の資料は西暦に統一します。

3-4. その他

【村田委員】

浦和美園における自動運転の電動小型バスの実証実験についての説明

4. 閉会

【事務局】

- ・ 本日さまざまなご意見を頂戴しました。次回協議会は 3 月を予定しています。本日頂戴したご意見については、次回の資料に反映させていきたいと思っております。
- ・ 以上で、平成 30 年度第 2 回さいたま市地域公共交通協議会を閉会します。

以上